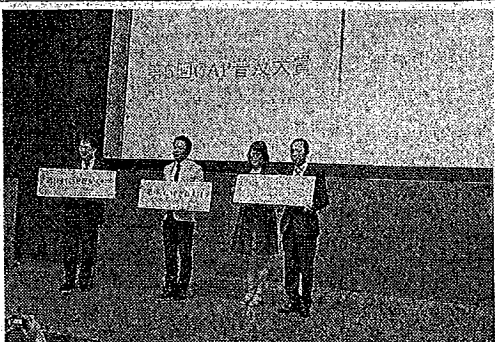


日本GAP大賞授賞式

まるせい果樹園に特別賞

一般財団法人日本GAP協会は九月十日、東京からみたEUの農業環境をテーマとした講演を行った。日本GAPの代表者が自社の取組についてプレゼンテーションを行った。日本GAPの代表者が自社の取組についてプレゼンテーションを行った。

第一部では「美しい農村づくりに向けたGAPの可能性」をメインテーマにした。パネリストとして、環境の未来」と題して、その後、美しい農村づくりのGAPで実現する」をテーマにした。パネリストとして、環境の未来」と題して、その後、美しい農村づくりのGAPで実現する」をテーマにした。



JGAP大賞の受賞者

学教授から受賞者三社に対して表彰状と記念品として昨年GAP大賞を受賞した北魚沼農協のコンヒカリとGAP規範で生産された出羽燐燐を原料米として

使用した日本酒が贈呈された。授賞式のと各社の代表者が自社の取組についてプレゼンテーションを行った。日本GAPの代表者が自社の取組についてプレゼンテーションを行った。

第一部では「美しい農村づくりに向けたGAPの可能性」をメインテーマにした。パネリストとして、環境の未来」と題して、その後、美しい農村づくりのGAPで実現する」をテーマにした。

第二部では「美しい農村づくりに向けたGAPの可能性」をメインテーマにした。パネリストとして、環境の未来」と題して、その後、美しい農村づくりのGAPで実現する」をテーマにした。

米穀新聞 2015年9月17日

直接支払いにGAPが醸成 EUと日本の違い

取得した。その普及を生産者や学生にも広めるため海外認証支援センターを立ち上げ団体認証も導入し、JGAP認証を通じてアジアのみならず世界中に輸出している。特別賞を受賞したまるせい果樹園はさくらんぼ、桃、柿、りんご等七・五を栽培する福島県内最大級の果樹園だが、原発事故の後風評被害で売上が激減、なんとか消費者の信頼を得る方法はないか放射能試験が義務付けられたJGAP認証を取得、商品にJGAP認証農場であることを大きくアピール、イオンのギフト商品に採用されるなど震災前の売上まで回復させた。さらに八月一

日から農家カフェをオープンするなど大きく注目されている。授賞式では佐藤清さん、ゆきえさん夫妻が登壇、花束贈呈で感謝する姿が見られた。JGAP認証農場数は今年三月末現在で二千五百二十九農場になり日本農業法人協会のアンケート調査で取得したい認証として四年連続で一位になっている。JGAP指導員も六千二百八十九名に増加、今年一月に財団法人日本GAP協会とNPO法人アジアGAP総合研究所を設立、日本語版の他英語版、中国語版、シンガポール版も作成海外普及を推進している。また、日本適合性認定協会と賞書を締結した。

環境支払いの事例としては、作付作物の多様化、粗放的草地利用、生態的インフラ、刈取り時期の制限、耕起の削減、湿地の確保、減農薬、減化学、冬期被覆、緩衝地帯に設置、農地の牧羊への転換、肉牛管理方法の変更といった項目でそれぞれ環境へのプラス効果を策定し支払金額を決めている。ユニークなのは絶滅危機にある品種を作付した場合も助成金が支給されるほか野生の花のために緩衝地帯を設置した場合も助成金が支払われる。また、除草剤を使用せず機械除草した場合も助成金が支払われる。五百五十ユーロ支払われる。

JGAPシンポジウムでは、メインテーマとしてGAPと直接支払制度の関係について、EUにおいては直接支払制度の条件にGAPに類似した十八の法律・規則が位置づけられている。さらにその直接支払いの上乗せとして地域条件を活かした環境支払いも日本ではGAPの広がりがこの機運を醸成する力を秘めているのではないかとこの点について三氏が講演した。

要について二十八カ国が加盟、人口は五億七千万人、世界のGDPの24%を占め、世界最大の食料の輸出・輸入地域であることに触れ、ヨーロッパでの農業支援は全ての加盟国に対して共通のルールに基づき公平な土壌を提供するもので、気象変動や生物多様性の減少などの加盟国の国境を越える課題に対するため協調行動が必要といった基本理念を説明した後、その政策の変遷、価格支持

環境支払いの事例としては、作付作物の多様化、粗放的草地利用、生態的インフラ、刈取り時期の制限、耕起の削減、湿地の確保、減農薬、減化学、冬期被覆、緩衝地帯に設置、農地の牧羊への転換、肉牛管理方法の変更といった項目でそれぞれ環境へのプラス効果を策定し支払金額を決めている。ユニークなのは絶滅危機にある品種を作付した場合も助成金が支給されるほか野生の花のために緩衝地帯を設置した場合も助成金が支払われる。また、除草剤を使用せず機械除草した場合も助成金が支払われる。五百五十ユーロ支払われる。

環境支払いの事例としては、作付作物の多様化、粗放的草地利用、生態的インフラ、刈取り時期の制限、耕起の削減、湿地の確保、減農薬、減化学、冬期被覆、緩衝地帯に設置、農地の牧羊への転換、肉牛管理方法の変更といった項目でそれぞれ環境へのプラス効果を策定し支払金額を決めている。ユニークなのは絶滅危機にある品種を作付した場合も助成金が支給されるほか野生の花のために緩衝地帯を設置した場合も助成金が支払われる。また、除草剤を使用せず機械除草した場合も助成金が支払われる。五百五十ユーロ支払われる。

最初にEUの農業・農村振興局のレオ・マイヤー課長が登壇、EUの概

環境支払いの事例としては、作付作物の多様化、粗放的草地利用、生態的インフラ、刈取り時期の制限、耕起の削減、湿地の確保、減農薬、減化学、冬期被覆、緩衝地帯に設置、農地の牧羊への転換、肉牛管理方法の変更といった項目でそれぞれ環境へのプラス効果を策定し支払金額を決めている。ユニークなのは絶滅危機にある品種を作付した場合も助成金が支給されるほか野生の花のために緩衝地帯を設置した場合も助成金が支払われる。また、除草剤を使用せず機械除草した場合も助成金が支払われる。五百五十ユーロ支払われる。

環境支払いの事例としては、作付作物の多様化、粗放的草地利用、生態的インフラ、刈取り時期の制限、耕起の削減、湿地の確保、減農薬、減化学、冬期被覆、緩衝地帯に設置、農地の牧羊への転換、肉牛管理方法の変更といった項目でそれぞれ環境へのプラス効果を策定し支払金額を決めている。ユニークなのは絶滅危機にある品種を作付した場合も助成金が支給されるほか野生の花のために緩衝地帯を設置した場合も助成金が支払われる。また、除草剤を使用せず機械除草した場合も助成金が支払われる。五百五十ユーロ支払われる。

環境支払いの事例としては、作付作物の多様化、粗放的草地利用、生態的インフラ、刈取り時期の制限、耕起の削減、湿地の確保、減農薬、減化学、冬期被覆、緩衝地帯に設置、農地の牧羊への転換、肉牛管理方法の変更といった項目でそれぞれ環境へのプラス効果を策定し支払金額を決めている。ユニークなのは絶滅危機にある品種を作付した場合も助成金が支給されるほか野生の花のために緩衝地帯を設置した場合も助成金が支払われる。また、除草剤を使用せず機械除草した場合も助成金が支払われる。五百五十ユーロ支払われる。